

「個人消費が想定を下回り、経済の好循環に至っていない」との判断からではないか

消費税増税延期で村山市長が見解表明

6月定例議会における一般質問が14日から3日間行われました。私は16日、2番手で登壇、北陸新幹線・えちごトキめき鉄道が開業してから1年3か月を経過したなかでの課題と対策、消費税増税問題、原発事故時の避難計画をとりあげました。以下、それぞれの質問と答弁の概要です。

【橋爪】北陸新幹線開業で上越を含む北陸に新しい時代がやってきた。新たな発展の可能性の契機になっていることは間違いない。それだけに、開業からこれまで1年あまりの間に起きたことをしっかりと見詰め、前進面を把握するとともに、課題を整理し、対策を考えていくことが大事だ。えちごトキめき鉄道の妙高はねうまライン、日本海ひすいラインは地域住民の日々の移動手段として大きな役割を果たしているが、新幹線との接続やダイヤの見直しなどが行われたものの、接続や通学生の負担などで依然として課題が残っている。どう対策をとっていくつもりかお聞きしたい。

トキ鉄との接続改善で努力を約束

【市長】交流人口の拡大が、幅広い分野で一定の経済効果を伴う、直接的・間接的な成果として現れてきている。今年度から定住促進奨学金を創設したほか、上越妙高駅を利用する団体旅行ツ

アーの市内飲食店や土産物店等への立ち寄りに対する補助を開始するなど、北陸新幹線を活用した新たな施策に取り組んでいる。更なる地域経済の活性化と市民生活の質の向上につなげていきたい。

えちごトキめき鉄道は、北陸新幹線に接続する二次交通の要であるとともに、市民の日常生活を支える重要な移動手段でもある。市としては、必要な改善については強く要請する一方、大切な公共交通を維持、確保していくため、引き続き、経営安定化のための補助金の交付や利用促進などの支援を実施していく。

【市長】交流

【市長】物理的に難しい面もあるが、そのこと（改善）をきちっと進めて行きたい。

【橋爪】先日、北陸新幹線を使い、直江津にやってきた人が上越妙高駅からのトキ鉄の接続に48分も要し、「我慢の程度を越える」とフェイスブックで発信されていた。改善に向けて努力してほしい。

【市長】市内経済、市民生活に大きな影響を与える問題ですので、消費税増税についてお聞きしたい。安倍首相は『新しい判断』で増税は延期すると表明したが、市長は延期、先送りの理由をどのようにとらえられているか、また、消費税を2年前に5%から8%にしたことによる影響をどのようにとらえているか。消費税10%への増税は先送りではなく、中止すべきだ。

【市長】この度の表明に至った背景には、政治的な側面もあるかと思うが、個人消費が想定を下回り、経済の好循環に至っていないとの判断から、このタイミングでの消費税を回避したものと受け止めている。また、個人消費の回復が遅れている要因には、国の財政状況や将来の



【カキラン】ラン科の多年草。漢字で「柿蘭」と書きます。名前の通り、花の色は柿色。初めて出会った時はこの色が強く印象に残りました。梅雨時の草むらにいる女王といった感じです。吉川区勝穂地区にて撮影。

社会保障への漠然とした不安から、消費者心理が冷え込んでいく側面もあると思う。消費税率の引上げは、「社会保障と税の一体改革」の前提となることから、国家財政を鑑みた場合、中止という判断は難しいのではないかと。

原子力災害避難計画の未整理課題整理できたものから計画に反映

【橋爪】「原子力災害に備えた屋内退避・避難計画」を策定して1年も経たないうちに、地吹雪による大交通渋滞が発生したほか、熊本地震のような大災害も起きた。どちらの事態でも、一番心配されたことの一つは、こういうときに原発で事故が起きたらどうなるかということだった。こういうときこそ見直しをしていくべきではないか。

【市長】計画は、事故の想定や対策など全ての事象への対応を網羅したものではなく、市や市民の皆さんが原子力災害時にとるべき基本的な対応をまとめたものだ。それぞれの季節や異なる気象条件下で発生した場合の課題のほか、一自治体では対応困難な要配慮者の皆さんの避難体制や安定ヨウ素剤の配布・服用体制などについては、国や県、関係市町村との連携・協力が不可欠となっている。これらの未整理の課題については、国や県、関係市町村が共同で課題解決に取り組んでいる。整理できたものから適時・適切に屋内退避・避難計画に反映してまいりたい。



No.1762 2016.6.26
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第四一〇回

奈良漬名人

漬物の腕はひよつとすれば母よりも上かも知れない。一度ゆっくり話を聞いてみたいものだ――だいぶ前からそう思っていた大島区大島地区在住のT子さんのところへ先日、行ってきました。

今年梅雨に入っても晴れの日が多く、T子さん宅へ行った時も青空が広がっていました。車から降りたとき目に入ったのは、木戸先の土手に咲く花です。土手のあちこちにコシジシモツケソウのピンクや白の花がふわっと咲いていて、見事でした。

坂道を上りはじめたところで、T子さんとお連れ合いのYさんの会話が聞こえてきました。ふたりは家のすぐ脇にある畑で、六〇ほどに伸びたキュウリの茎を白いナイロン紐でクネバラにしぼりつけて行く作業をされていました。声を掛け合いながらの作業は息がぴったり、私はしばらく声をかけずにその様子を見せられました。

私が声をかけたら、びつくりされたのでしよう、T子さんは「あらまあ」といった感じの顔になりました。クネバラに使っている木は、何年も使っていたようで、皮はすっかりむけてつるつるになっていました。「これ、みんな杉かね」と訊くと、「雑木もある。でも杉の木が一番丈夫だね」との答えが返ってきました。

畑を見渡すと、キュウリの他にヤツガシラ、シロイモが植わっています。畑には草一本なく、八〇代前半の夫婦が畑をきれいに守っているのにも驚きました。もともと驚いたのはヤツガシラなど野菜もんの種芋はできるだけ自分のところで採っているということです。しかも、その保存には横井戸を使っているというのです。

T子さんに「さあさ、入ってお茶でも飲んで行ってくんない」と誘われ、居間でお茶と大きく甘いサクランボをご馳走になりました。

私がお連れ合いのYさんと窓の外を見ながら話をしていると、T子さんは「橋爪さんにお茶、ついでやってくんない」と言っどどこかへ行きました。後でわかったことですが、その間にT子さんは家の近くにある建物へ行き、母へのプレゼント用の奈良漬を出してきてくださったのです。

菓子箱にいっぱい入れた奈良漬を私のそばまで持って来るまでに一〇分はかかったでしょう。それからです、私の母のことや漬物のことで話はずんだのは……。 「おまんちのお母さんにお会いしたは足谷の騒ぎのときだった。イナバ（屋号）の家でお会いしてそれっきりだもんね。でも、それよりもずっと前に岡村の家に泊まんなったこともあるすけ、お母さんの顔は十分知っているがでもさ」

話のなかで私が一番関心を持ったのは横井戸です。夫婦が使っている横井戸は家の裏山のかなり高いところにあります。奥行きは約五メートル、穴の高さはあまりなく、出入りするときは這（は）って動くしかないとのことでした。横井戸は野菜もんの種芋を入れるだけでなく、漬物を保存する場所としても使っていました。話を聞いて、穴の中の低い温度が美味しい奈良漬づくりに大事な役割を果たしていることがわかりました。

T子さんは白瓜を漬けるのに三〇^分もの粕を使います。「漬けたもんは四角い箱に入れて、ひきずって横井戸に運ぶの。すっぱくならんし」とT子さんが言うと、すかさずYさんが「味、変わらん」と言葉をつなぎました。夫婦はここでも息がぴたりでした。

家に戻って、奈良漬はすぐ母に渡しました。食べてみると、歯ごたえがあつてじつに美味しい。横井戸をうまく使い、いつまでもいい味を出す。T子さんはやはり奈良漬名人です。母もすっかり気に入ったようで、入院中の弟にも届けるように言いました。

ガス水道局所管工事談合事件の次回の口頭弁論は30日

上越市ガス水道局所管本支管工事における談合事件の第7回口頭弁論が30日午前10時から新潟地方裁判所において行われます。

前回の口頭弁論では、被告の市側

が初めてまともに主張を展開し、こちらの主張に対して反論してきました。もっとも、被告の反論は、「この程度の主張では訴訟にならない」「金額にズレがあり、不正確なので原告の主張は疑わしい」「録音データも談合そのものの証拠にはならない」といった調子で、本質的な反論とは言えないものでした。

こうした被告の主張に対して、裁判長は「金額の相違に関しては訂正をしてほしい」「録音

データは他にもあるようなので出してほしい」「被告の反論に対する再反論をしてほしい」と、交通整理を行っています。

今回の口頭弁論では、被告の反論に対して、原告から再反論することになります。

裁判はいうまでもなく傍聴できます。原告団では車を用意して、みんなで傍聴に出かけるようにしていますので、ご希望の方は橋爪までご連絡をお願いします。

チマキづくり、各地で

チマキの季節です。市内のあちこちでチマキをゆでている場面や乾かしている場面などに出合います。タイミングがよく、ご馳走になることもあります。

写真は吉川区のある家に出合った風景です。大きな釜を使って昔ながらの方法で作っている様子を見て感激してしまいました。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16 μ Sv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月15日(水)	6月22日(水)
上越南消防署	0.047	0.057
上越北消防署	0.057	0.050
新井消防署	0.057	0.050
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.047	0.050
東頸消防署	0.043	0.057
高士分遣所	0.047	0.047
名立分遣所	0.057	0.057